



# I.B.MUSEUM SaaS リニューアル情報 EXPRESS

発行元:早稲田システム開発株式会社 東京都新宿区高田馬場4-40-17 tel.03-6457-8585

✉ maps@waseda.co.jp 🏠 www.waseda.co.jp/

Vol.4 2022.04.30 今回のテーマ | 詳細画面の特徴

## 今回の内容

日頃は「I.B.MUSEUM SaaS」をご利用いただき、誠にありがとうございます。新年度を迎え、人事異動で新たな職場に着任された場合、初めてこのシステムを目にされる方もおられるかと存じます。マニュアルを開いたり先輩にレクチャーを受けたりしながら操作に慣れていただくこととなりますが、できれば一見ただけですぐに使いこなせるのがベストですよね。このニュースターでお知らせしております今回のリニューアルプロジェクトは、そんな理想のもとに進行しております。

リニューアルの実施予定はまだ少し先になりますが、それまでの間、操作方法の面でお困りごともあるかと存じます。特に人事異動の後は、新たな陣容に合わせた設定変更や操作指導など、詳しい方に負担が集中しがち。そこで、弊社では臨時の操作説明会の開催を随時承っております。オンラインでの開催も可能ですので、ご入用の際はご遠慮なくご相談くださいませ。

さて、今回は「詳細画面」のリニューアルについてご紹介いたします。仕事のツールとしての親しみやすさ、使いやすさなどが顕著に現れる部分ですので、以下、詳しくご説明いたします。なお、前回までと同様に掲載情報はすべて現在開発中のものですので、実際のリリース版とは異なる場合がございます。まだ未定の部分も多いので、弊社スタッフとお話しになる機会がありましたら、ぜひご意見をお聞かせください。

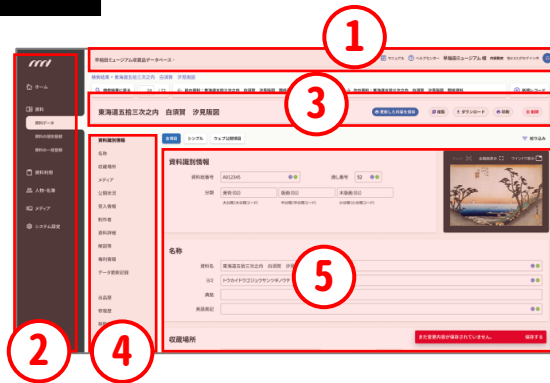
## I.B.MUSEUM SaaS リニューアル情報 EXPRESS 発行予定

Vol.1	2022/1/31	リニューアル計画概要とログイン画面
Vol.2	2022/2/28	デザインコンセプトとホーム画面
Vol.3	2022/3/31	検索トップと検索結果一覧
Vol.4	2022/4/30	詳細画面の特徴 <b>Now!</b>
Vol.5	2022/5/31	データ登録方法とクリップリスト
Vol.6	2022/6/30	資料利用
Vol.7	2022/7/31	人物・名簿とメディア
Vol.8	2022/8/31	公開設定
Vol.9	2022/9/30	項目設定
Vol.10	2022/10/31	帳票設定
Vol.11	2022/11/30	ユーザ管理・一括処理
Vol.12	2022/12/31	移行方法と並行運用について
Vol.13	2023/1/31	総集編 (Vol.1からVol.12までを1冊に)

Vol.5の予定を一部変更しました。「クリップリスト」を加えています。



## 各部の名称



「リニューアルexpress Vol.3」では、画面の各部を以下のように呼びます。

- ① 上部バー
- ② グローバルナビゲーション
- ③ タイトルエリア
- ④ アンカー
- ⑤ メインエリア(詳細情報)

## リニューアル情報⑥ 詳細画面



項目をグループ分けする「アンカー」を設置。情報を見つけやすく、レイアウトの自由度も改善。

今回のテーマである「詳細画面」は、紙の資料カードに相当します。一言で言うと「カード画面」ということになります。

紙上で記載情報をグループ分けする場合、色や罫線の太さで表現するのが一般的です。現在のI.B.MUSEUM SaaSでは、グルーピングにタブを使用しています。「この項目は1番目のタブ、あの項目は3番目のタブ」というように、館ごとに配置を決めてお使いいただいていることと存じます。

下のタブはカード本体の「間仕切り」のようなもので、右のタブは履歴など表示中の資料に対して複数が付帯する情報を収納。タブを切り替えて使用する分だけ画面がスッキリと片付く反面、目的のデータ項目がどのタブの中にあるのかが分かりにくくなるというデメリットもあります。

項目レイアウトを検討されたご本人をはじめ、システムに慣れ親しんだ人なら「あの項目は2番目のタブの先頭にある」と瞬時に移動することもできますが、着任直後の方にはフレンドリーとは言えません。特に、2つ目以降のタブに配置されている項目を見つけづらいというお声は、少なからず耳にします。「この情報を入力する欄はどこ?」とタブを移動して探す作業は、初見の方には大変かと存じます。

**資料識別情報**

- 名称
- 収蔵場所
- メディア
- 公開状況
- 受入情報
- 制作者
- 制作年等
- 解説等
- 権利情報
- データ更新記録
- 出品歴
- 修復
- 移動
- 来歴
- 関連資料
- クリップリスト
- 参考文献
- リンク

ファーストビューで画面下に隠れている情報は

アンカーをクリックすると...

その場所まで瞬時にスクロール

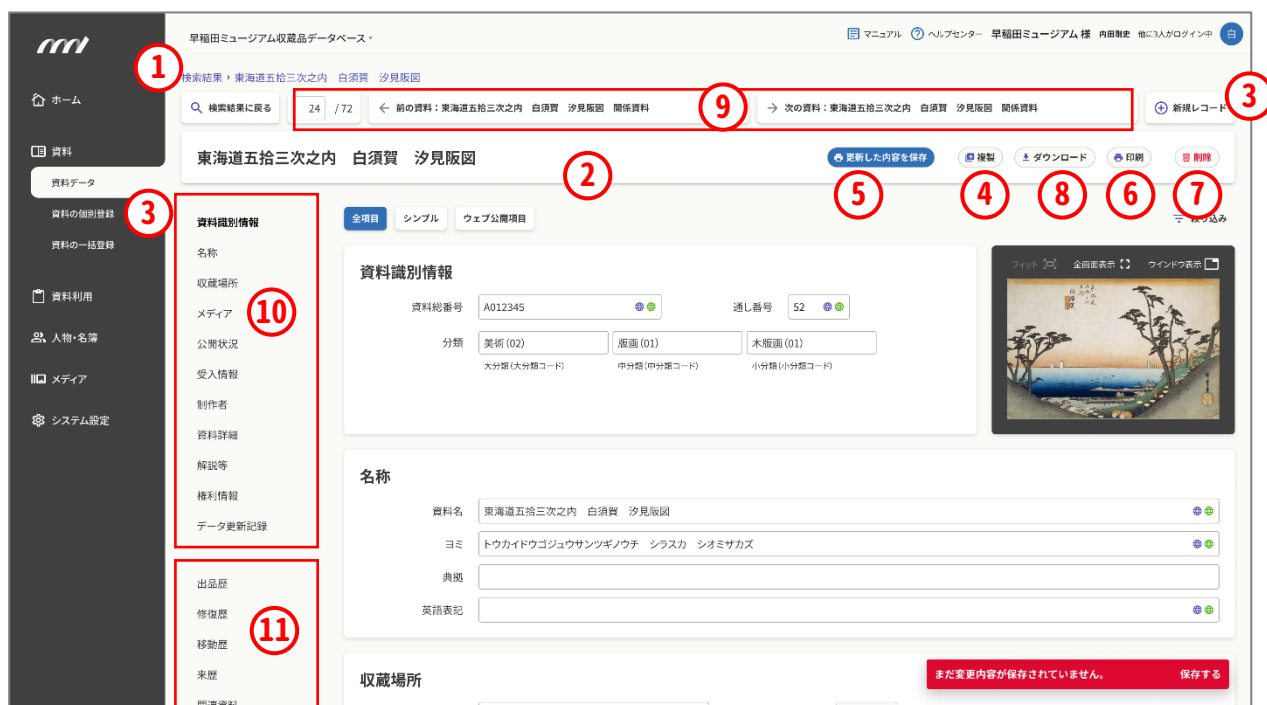
そこで、今回のリニューアルでは、詳細画面のタブによる区分を廃止。原則としてすべてのデータ項目を同じページの中に置き、下にスクロールするレイアウトに変更いたします。

これまでよりも少し探しやすいはずですが、データ項目が多い場合はスクロール幅が広くなり、それはそれで大変。そこで、項目グループを設定できる「アンカー」を画面左に並べ、ワンクリックで目的のグループに飛べる仕様としました。

Webサイトで表示中のページから特定のテキストを探す際、ブラウザの検索機能(Ctrl+F／⌘+F)をお使いになる方が多いと思います。一方、現行システムでもショートカットキーを使えますが、開いているタブの画面内でしか探せません。その点、新デザインでは、全項

目が同じページ内に配置されていますので、Webページ内の感覚で検索をかけることが可能。初めてお使いになる方も、すぐに目的の項目を見つけられるようになります。

もうひとつ、今回のリニューアルで大きく変わるのが、館独自の資料カードとなる詳細画面づくりの自由度です。現行のシステムでは下タブに項目グループ(間仕切り)を割り振ることができませんが、タブ5つが上限でした。一方、アンカーによるグルーピングには、理論上は置く数に制限はありませんので、より自館にフィットする資料カードを作成できるようになります。あまり多く置くと見づらくなりますが、5つのタブへの振り分けを考える必要がなくなり、より自由なレイアウトを展開できるようになるわけです。



- ① パンくずリスト | パンくずリストとは、Webサイトを訪れたユーザが「いま、どのページにいるか」を視覚的に分かりやすく示す誘導表示のこと。新デザインでは、一般的なWebサイトに似た使い勝手になります。
- ② タイトル | 現行デザインよりタイトルパネルを大きく扱い、より見やすく、分かりやすく。各種操作ボタンも、このパネル内に組み込まれます。
- ③ 新規登録 | 表示されたデータの内容を確認したり編集したりする詳細画面なので、新規登録画面を開くボタンは取って少し離れた右上、「枠外」的な位置に設置。グローバルナビゲーションからもアクセスできます。
- ④ 複製登録 | 現行デザインから大きな変更はありません。
- ⑤ 保存 | 現行デザインでは「複製」や「新規」と並列としての位置づけで配置されていましたが、新デザインでは作業の頻度を考慮し、より目立たせました。
- ⑥ 印刷 | 現行デザインから大きな変更はありません。
- ⑦ 削除 | 似たボタンを誤ってクリックしてしまうリスクを考慮し、フォントを警告色に。よく確認してから押しましょう…というメッセージです。
- ⑧ ダウンロード | 表示中のデータをダウンロードする機能。現行デザインでは存在しないボタンですが、リニューアルで新設を検討しています。
- ⑨ ページ遷移ボタン | 「検索結果一覧の○点中○点目が表示されている」ことを示しており、数字を指定して該当ページに飛ぶことができます。現行デザインでは「数字の指定ができる」こと自体が伝わりにくいというご意見にお応えして、より分かりやすい入力欄に変更。同時に、ひとつ前・ひとつ後の資料に移動できるボタンも、資料名ごと表示されます。
- ⑩ 下タブ | 前述の通り、現行画面の下に並ぶタブは、1枚の「資料カード」内で区分できる5つの項目グループを設定することができました。新デザインでは、情報をタブで分けるという概念がないため廃止され、代わりに見たい情報にワンクリックで飛ぶことができる「アンカー」を設置することができます。なお、アンカーは原則として数の制限はなく、見づらくならない範囲で自由に作成することができます。
- ⑪ 右タブ | 履歴や関連資料など、1枚の資料カードに対して繰り返し付与することになる付帯データは、画面右のタブから当該データの一覧を開いていました。新デザインでは、下タブと同様に、やはり同一ページ内に配置されるアンカーとして表示されます。

## 全項目を表示したり、目的の項目に絞ったり。 登録・編集に便利な表示の切り替え機能。



タブ管理から「1枚もの」に移行することで、目的の情報により見つけやすく。画面が縦長になってスクロール幅が増える欠点は、一発ジャンプのアンカーで解消。これで情報へのアクセス速度はかなり向上するはずですが、さらに快適にご利用いただくには、もうひとつ大きな課題があります。それは、弊社のサイトで17年にわたり不定期連載中の『ミュージアム・インタビュー』でも時折り登場する「空欄だらけ」問題です。

データ項目をたくさん用意したけれど、実際には必要最低限の情報を入力するだけで精いっぱい、項目は空欄だらけ。そんな画面を見ていると、情報が探しにくいだけでなく、そもそも利用する気が失せてしまう…というメンタルの問題。確かに、画面が真っ白ではモチベーションが上がりません。そこで、今回のリニューアルでは、作業状況に合わせて表示する項目を絞り込む機能を実装する予定です。

システムと向かい合う際は、その時々で目的が異なります。「大量の資料情報をメンテナンスしなければならない」「ひとつの資料情報の詳細データを追加したい」など、シーンによって必要となるデータ項目は異なります。たとえば公開ページの情報内容を見直すなら、公開中の項目だけが見えていればよいはず。そんな時、画面表示も公開項目だけに絞り込むことができれば、空欄だらけの寂しい画面からチェックする項目を探す必要はなくなります。

そこで、見える項目が異なる3種類の表示方法の切替機能を採用する予定です。ただし、詳細な仕様を決定するにはヒアリングと検証が必要となりますので、実装は少し後になります。

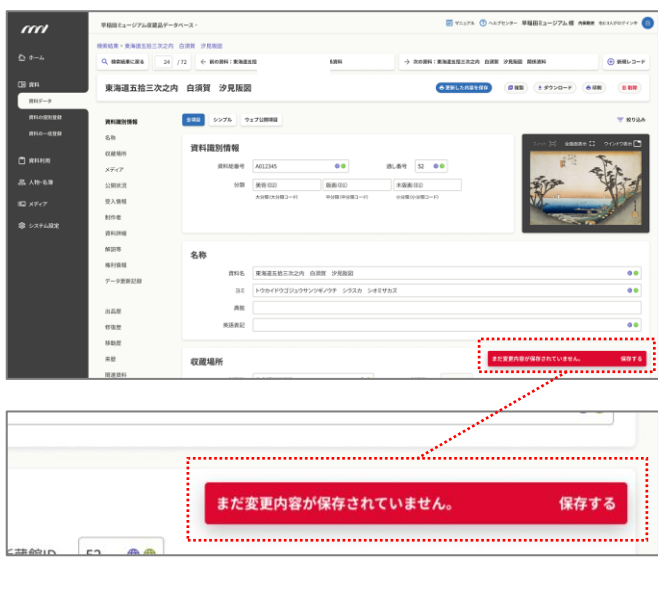
編集を開始すると保存を促すバーを表示。

よくある「保存し忘れ」を未然に防止。

さて、この詳細画面は、データの確認だけでなく編集・更新作業でも使用します。現行システムでは、編集を開始すると入力データのフォントの色が変わることで「編集集中である」ことがひと目で分かる仕様を意図していました。

このフォント色は、赤色では違和感が強く、淡い色にすると可読性が落ちるということで現在の青色に落ち着きましたが、黒から青への変化は視認性がいまひとつで、編集集中＝保存前であることを忘れて次の画面に移ろうとしてしまいがち…という声も聞かれました。一応は「保存しないで次に進みますか?」というメッセージが出ますが、上記の意図に反してひと手間増える結果となってしまいます。

そこで、新デザインでは、編集を開始すると保存ボタンが画面下に浮かび上がる仕様になりました。かなり目立たせていますので、編集集中に次の画面に行こうとするミスを目視的に防ぎます。



スクロールで  
画像が見えなくな  
らないように

フロートさせて  
見やすい位置に  
自由に配置



## リニューアル情報⑦ 詳細画面に付随する情報

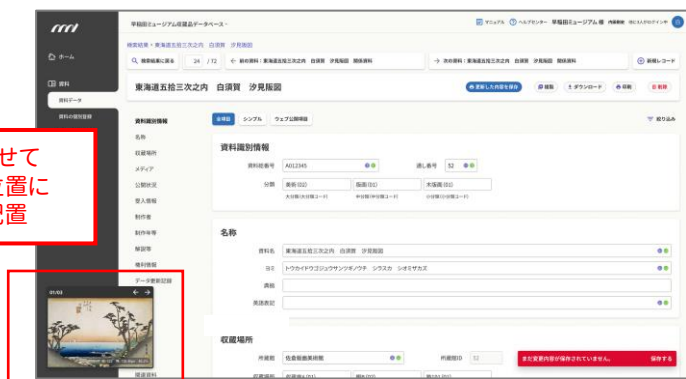
### メディア(画像)は「フロート」させて、常に表示しつつ邪魔にならない場所に移動。

多くの館で大量に登録される画像データですが、では「システムの画面内で表示される画像」はどんな意味を持つのでしょうか。作業的に文字情報のみで十分なシーンも多々あるものの、資料の識別など写真や図版を頼りに作業を進める場面も多いため、やはり詳細画面での画像表示は欠かせません。

では、どこに表示するのがベストでしょうか。昔ながらの紙のカードでよく見られたように「画像は画面の右上」というスタイルが自然と感じる方が多いのでは。実際、現在のシステムでもこのレイアウトを採用しております。

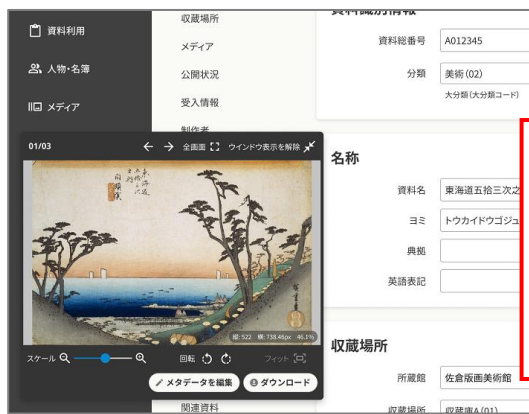
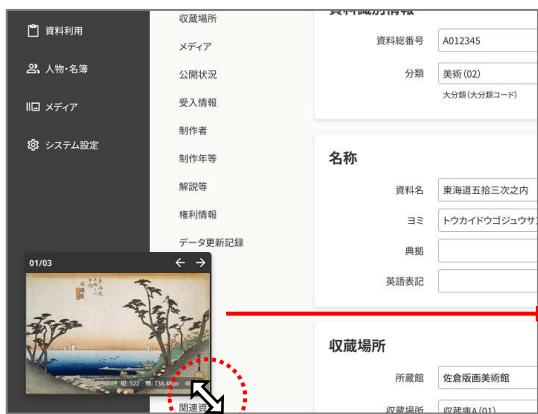
ところが、今回のリニューアルではタブを廃止し、下にスクロールすることを前提とした画面デザインを採用します。この時、画像が右上に配置されていると、スクロールによって表示エリアから消えてしまうことに。同一の名称を持つ複数の資料の情報を連続して更新する場合など、作業内容によっては常に画像が表示されていないと編集している情報がどの資料のものか分からなくなるような事態も引き起こしかねません。

そこで、今回のリニューアルでは、画像をフロートさせてスクロールしてもその場所に留まる機能を搭載します。これで常に画像を見ながらの作業が可能になりますが、表示位置によっては文字情報や入力欄を隠してしまうこともあるかと思いますので、フローティング中の画像を自由に動かすことができる機能も搭載。邪魔にならない場所に画像を置いて、常に見やすく快適な作業環境を提供します。

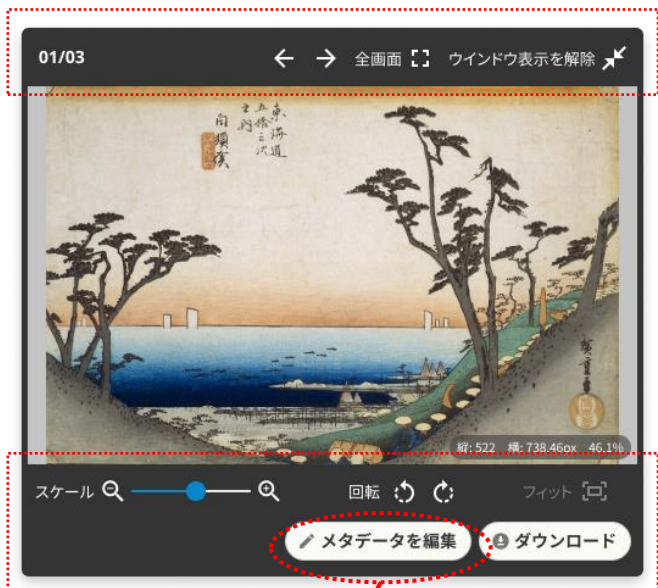


なお、かつてはテキスト以外の情報と言えば画像＝静止画を意味しましたが、近年はYouTube動画リンクや3Dオブジェクト、PDFファイルなどを登録する機会も増え、画像という単語では括れなくなってきました。そこで、今回のリニューアルを機に、画像関連の機能で使用する「画像」という用語を「メディア」に変更予定。早速ここから使ってみます。





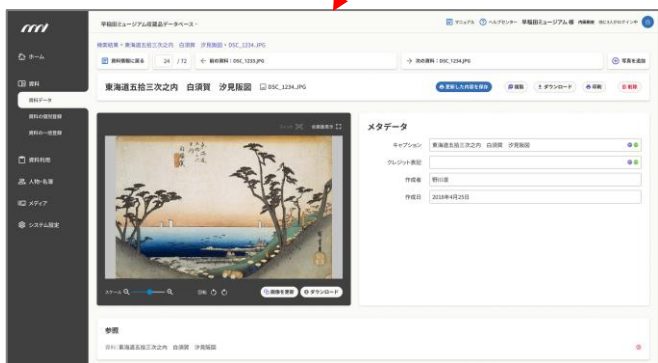
フロント部分の「角」にマウスを合わせて、画面を広げたり縮めたりすることが可能。拡大すると、さまざまな機能ボタンが現れます。



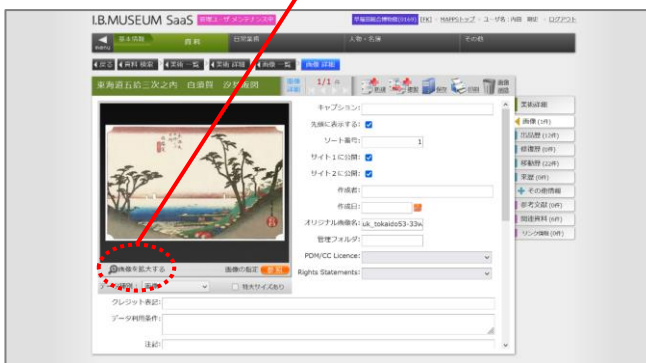
【新デザイン・メディアフロート画面】



【現行デザイン・拡大画像ビューア】



【新デザイン・メディア詳細画面】



【現行デザイン・画像詳細画面】



【新デザイン・資料詳細画面・画像(メディア)部分】

フロントしているメディア(画像)のサムネイルはマウスで拡大でき、あるレベルまで拡大するとスライダーバーや回転ボタンが表示されます。静止画像の場合、この段階で現行画面の拡大画像ビューアと同じ機能が揃うことになります。

「メタデータを編集」というボタンをクリックすると、そのメディアの詳細画面が表示されます。この画面は、現行デザインの画像詳細画面と同様です。メディア(画像)に付随するメタデータの項目を自由に追加・変更できる点も現行通り。もちろん、資料の詳細画面からメディア(画像)の詳細画面への移動も可能です。

## 出品歴など資料に付帯する情報の一部にも、 詳細画面からワンクリックで。

出品歴やメディア(画像)など、ひとつの資料に紐づいている多様な情報は、現行デザインでは右タブから呼び出します。たとえば出品歴の場合、右タブをクリックすると表示される一覧の中から見たい出品歴情報を選ぶことになります。

新デザインでは、こうした付帯情報は数件が詳細画面上に表示されます。これにより、直近の出品歴は「出品歴一覧」を経ることなく、資料カードの役割を果たすこの詳細画面からワンクリックでアクセス。その資料の出品歴に関する詳細情報をスピーディに開くことができるようになります。これも、今回のリニューアルのコンセプトのひとつである「クリック回数の削減」を具現化したものです。

なお、すべての情報を見たい場合は、「一覧」ボタンをクリックすると現行デザインと同様の一覧画面が開きます。その資料の出品歴をすべて見直すような場合でも、現行デザインに比べてクリック回数が増えることはありません。

メディア(画像)には数点のサムネイルを表示。一覧ボタンや追加ボタンもこのエリアに。



【新デザイン・資料詳細画面・制作者部分】

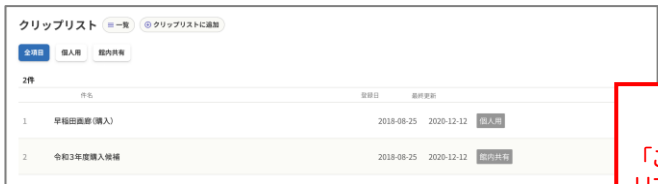
詳細画面上では「先頭の数件」を表示。一覧ボタンをクリックすると全件表示画面に移動。



【新デザイン・資料詳細画面・出品歴部分】

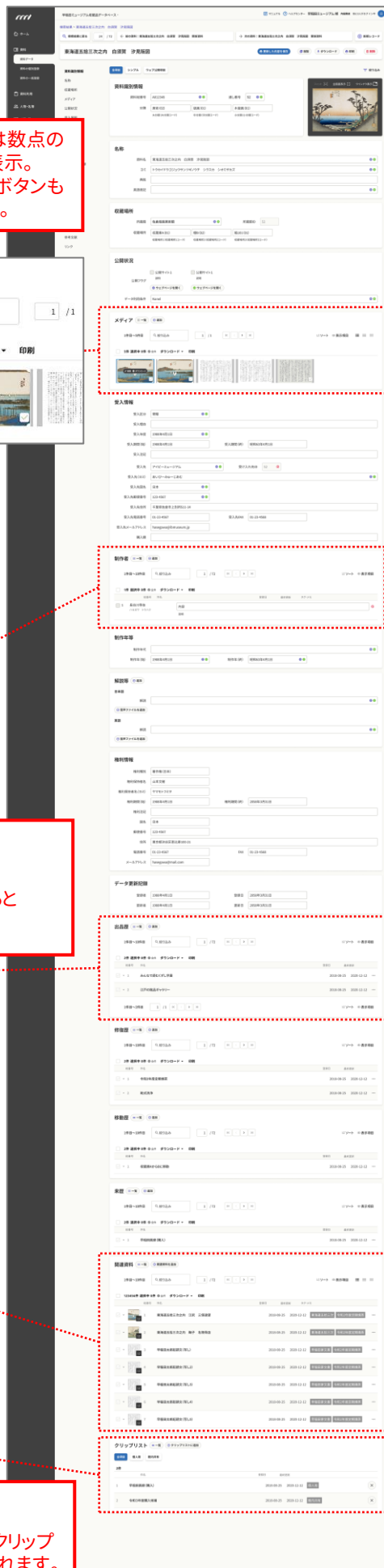


【新デザイン・資料詳細画面・関連資料部分】

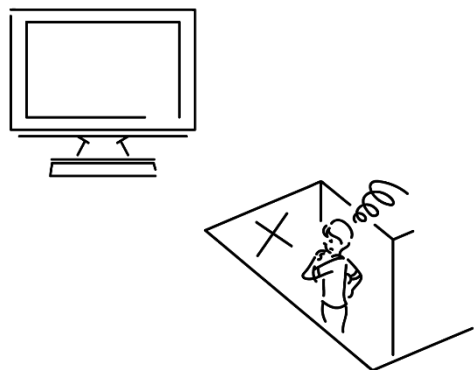


【新デザイン・資料詳細画面・クリップリスト部分】

新デザインでは、「この資料が登録されているクリップリスト」も詳細画面上に表示されます。



## Internet Explorerについて



Internet Explorer(以下「IE」と言えば、長く親しまれてきたWebブラウザ。しかし、残念ながら今年の6月16日をもってサポートが終了となるのがMicrosoft社より告知されています。一方、今回のI.B.MUSEUM SaaSのリニューアルは、IEのサポート終了の半年以上も先の予定。したがって、現在のところ、リニューアル後はIEを動作保証の対象外とする予定です。

まだIEをお使いの皆様は、早めに別のブラウザへの移行をおすすめいたします。Windows 10、Windows 11には新たなWebブラウザとなるMicrosoft Edgeが標準搭載されていますので、まずはこちらのご利用のご検討を。組織として統一してIEをご利用の場合は、システム管理者にご確認ください。

## 今回のまとめと次号のお知らせ

ここまでお読みいただき、誠にありがとうございました。弊社の収蔵品管理システムであるI.B.MUSEUM シリーズが請け負った最初のミッションは、とある美術館の作品カードの電子化でした。つまり、I.B.MUSEUM は「紙のカードをデジタル化してデータベースで運用する」ことからスタートしているわけです。その意味では、今回ご紹介した詳細画面は、このシステムの根幹とも言えるものです。

前回ご紹介した検索画面が「目的のカードを取り出す」までの動作なら、今回の詳細画面は「データ満載のカードの中から必要な情報を見つけ出す」という動作。地図を使う時に実感できる通り、デジタル情報の弱点は「一望性」にあるとも言われます。大きく広げて「この種の情報はだいたいこのあたりにある」という見つけ方なら、まだアナログに一日の長があるかもしれません。

そんな観点から、詳細画面のリニューアルでは「カード内の情報の見つけやすさ」を重視しました。必要な情報にジャンプできる

アンカーを自由に設定できたり、よく使う情報だけを表示する機能を新設したり、履歴などの付帯情報の一部を表示したり…と、アクセスの改善につながる工夫を多数盛り込みましたが、いかがでしょうか。

新型コロナウイルス感染症に翻弄されたこの2年の間、社会のデジタル化は加速度的に進みました。これまで網羅的な情報の整備を進めてきたミュージアムも、それが一段落した後は資料情報の公開、並行して1枚1枚のカードに記載された情報の拡充が課題となります。したがって、目的の情報へのスピーディなアクセス環境の確保は、もはや待ったなし。その意味で、今回の詳細画面のリニューアルは重要な役割を果たしますが、まだ未確定な部分も多いので、ぜひご意見をお寄せいただけましたら幸いです。

次号は、データの登録方法と「クリップリスト」についてお知らせします。登録機能では、新しい資料を登録するだけでなく、登録済みデータの編集作業もグッと快適に。クリップリストは、近年、利用頻度が急速に高まっている重要機能です。ぜひご注目ください。



- ※ 掲載スケジュールは、すべて発行時点での予定です。開発の状況により変更となることがございます。
- ※ 掲載のリニューアル画面は開発中のものです。